

「ラバンの追跡」

2021年04月14日

ラケルはテラフィムを取って、らくだの鞍にしまい込み、その上に座っていた。それでラバンは天幕の中をくまなく探ってみても、見つけることができなかった。彼女は父に言った。「お父さん、怒りの眼を向けないでください。私には月のものがあり、あなたの前に立つことができないのです。」ラバンはなおも探したが、テラフィムを見つめることはできなかった。(創世記 31 章 34 節～35 節)

ラバンは、ヤコブが逃げたことを 3 日目に知り、一族を連れて、7 日目に、ギルアドの山地で追いついた。その夜、神が夢の中に現れ、「ヤコブとは良し悪しを論じないように注意なさい」と告げられた。ラバンはヤコブに遭い、怒って言った。何とということをしたのか。娘たちを捕虜のように引き連れていくとは。隠れて逃げて、私を欺いた。知らせてくれれば、タンバリンと琴をもって、喜び歌って、送り出したものを。娘たちや孫たちに別れの口づけもさせず、愚かなことをした。私はお前をひどい目に遭わせることもできるが、タベ、お前たちの神から「良し悪しを論じるな」と言われた。確かに、父の家が恋しくなくなって、帰りたくなったのであろう。しかし、どうして私の神々(テラフィム)を盗んだのか、と。ラバンにとって家の守り神、そして、相続に関わるテラフィムが奪われたことが、最も大きな怒りであった。ヤコブはラバンに、「私は、あなたが自分の娘たちを私から奪い取るのではないかと思って恐れたのです。もしあなたの神々が誰かのところで見つかるならば、その者を生かしてはおきません」と反論した。ラケルが盗んだことを知らなかったからである。そこで、ラバンは、レア、二人の召し使いの天幕を捜し回ったが、見つからなかった。最後に、ラケルの天幕に入って来た。ラケルはテラフィムを取って、らくだの鞍にしまい込み、その上に座っていた。ラバンは彼女の天幕の中をくまなく探ってみても、見つけることができなかった。彼女は父に言った。「お父さん、怒りの眼を向けないでください。私には月のものがあり、あなたの前に立つことができないのです。」と、生理中だから、立てないと言って、らくだの鞍の下のテラフィムを隠し通した。ラバンはなおも探したが、見つけることができなかった。盗まれたと疑っていたテラフィムを見つめられなかった。この時、立場が逆転し、ヤコブはラバンに怒って、責め立てた。「私にど



メソポタミアで発掘されたテラフィム

んな背きの罪、どんな罪があつて、そんなに私を追い回すのですか。あなたは私の物をくまなく探りましたが、あなたの家の物が何か見つかりましたか。もしあれば、それを私の一族の前に出してください。私たち二人の間を彼らに裁いてもらいましょう。」ヤコブは、レアとラケルのために 14 年、ラバンのために 6 年、20 年間、誠実に働きながら、報酬を十回も変えられたと責めた。ラバンは返す言葉がなかった。この逆転劇をもたらしたのはラケルである。強欲な父は言いがかりをつけるであろう。その時、テラフィムを隠し通せば、立場は逆転する。そのように、ラケルは仕組んだ。ヤコブに愛されたラケルの夫を守ろうとした知恵、機転である。愛された者の愛する者への思いがヤコブの逃亡を助けたのである。ヤコブは、祖父アブラハムの神、父イサクの畏れる方が、私と共にいてくださり財を得たと、信仰を告白している。